



団地内の空き家を活用して誰もが気軽に立ち寄れる交流スペースを設けている。住民約50人とNPO法人が企画運営し（設置はNPO法人）、様々な活動メニューを展開している。食事をしながら会話を楽しむ「おしゃべり食堂」や脳トレを兼ねた「わいわい健康麻雀」、子育て中の親子が集う「おやこ de カフェ」等のほか、各種イベントも行っている。

- 内 容 空き家を活用した交流スペース
（活動メニュー）
おしゃべり食堂、わいわい健康麻雀、おやこ de カフェ、なんちゃって手芸部、男性介護者が集えるコミュニティスペース、各種イベント
- 実 施 日 週4日（火～金）
- 場 所 美鈴が丘団地の住宅（空き家、佐伯区美鈴が丘東3丁目）
- 利 用 者 1月約300人
- 開始時期 平成24年10月
- 実施主体 ら・ふいっとHOUSE運営委員会、NPO法人悠々自在



取組のステップ



年を重ねても楽しく暮らせる団地にしたい

ひとり暮らし高齢者の中には地域との交流の機会が少ない人が増えている。こうした中、団地内で、数人のグループが「年を重ねても団地で楽しく暮らせるように」と、NPO法人の立ち上げを検討していた。

一方、団地内で介護事業を行うNPO法人が、介護や福祉の枠を超えた人と人がつながる地域づくりの必要性を感じ、地域を盛り上げていきたいとの思いを持っていたことから、一緒に高齢者や他の世代が集い交流する場所を作ることになった。

交流スペースとして、団地の空き家を活用

当初は、交流の場として集会所や公民館を考えたが、制約などもあることから、自分たちで自由に使うことができる空間がいいと、空き家を利用することにした。

町内会活動を通じて得た情報を基に所有者に連絡し、借りるための条件等を話し合った。



「ら・ふいっとHOUSE」オープン

地域の協力を得て準備を進め、平成24年10月「ら・ふいっとHOUSE」がオープンした。ら・ふいっととは、フランス語で「お隣さん」を意味する。お隣の家に行くような感覚で気軽に立ち寄れる場所にしたいという思いである。

この取組を住民に周知するため、チラシを作成して全戸配布した。配付は町内会の協力を得た。

企画・運営は地域のボランティアが担当

スタッフは地域の人への直接の呼びかけで集めた。最初は数人のメンバーがそれぞれの知り合いに声をかけ、集まった人達がさらに知り合いに声をかけることで増えていった。現在、約50人のボランティアスタッフが活動している。



対象者を限定しない利用

定期的な活動メニューは、おしゃべり食堂など5つ。幅広い世代が交流することで地域全体が盛り上がるよう、対象者を限定しないで、参加する人の状況や性別、年代に応じたものを組み合わせた。

これ以外にも、随時、イベントを行ったり、部屋が空いている時間は、地域の会合等にも開放している。

■ おしゃべり食堂

毎月5回、手作りランチを提供。高齢者やひとり暮らしの人など多くの人が食事をしながら交流できる場となっている。

■ わいわい健康麻雀

「賭けない・飲まない・吸わない」をモットーに午前中に開いている健康麻雀。脳の活性化にもなると話題になり多くの人が参加。麻雀を通じて交流を深めている。

■ おやこ de カフェ

子育て中のお母さんやお父さんたちの交流の場。スタッフが子どもたちと遊んでいる間にお母さん、お父さんはお茶を飲みながら会話を楽しんでいる。

■ なんちゃって手芸部

初心者から経験者まで幅広く参加。「なんちゃって」とあるように、難しいことは求めずそれぞれのペースで進め、バッグなどの実用的なものを中心に作っている。

■ 男性介護者が集えるコミュニティスペース

男性介護者の情報交換の場。ゆったりとした雰囲気の中で参加者が思い思いの話をする。ストレス解消にも一役。



工夫していること



活動の核となる人を中心に進める

すべてボランティアで運営しているため、活動の核になる人の存在が重要。その人を中心に活動を進め、全体の調整を行うようにしている。また、定期的に会議を開いて、活動方針の確認、運営ルール決定、情報の共有を行っている。

活動を広報する

毎月、イベントスケジュールを作成し、チラシや掲示板、ホームページで広報している。また、多くの人に興味をもってもらうため、年2回、近くの公園で「おとなりさん祭り」を開催している。

朝市にカフェを出店して運営資金に

運営は、全て自主財源である。美鈴モール商店街の朝市にカフェを出店して、その売り上げを運営資金の一部に充てている。



エピソード



- ・ 地域の人が集い顔見知りになることで、自然につながりが生まれ、ら・ふいとHOUSEの外で会った際も挨拶する光景が見られるようになった。
- ・ おしゃべり食堂等の活動メニューに参加した人が、次回はスタッフとして関わるようになった。

課題・今後の展開

- ・ 活動を継続するため、スタッフを増やす。
- ・ 団地内の他の地区にも活動を広げる。

みんなの声



〈住民〉

- ・ 知り合いに会えるので安心する。自分の第2の家のように居心地がいい。
- ・ 人と話ができるのが楽しい。自分の話をしっかりと聞いてもらえる。
- ・ いろいろな世代の人が楽しめるメニューがたくさんあり、毎回来るのが楽しみ。

〈主催者〉

- ・ 自分のできることを生かし、誰かに喜んでもらうことでやりがいを感じる。
- ・ 地域の人に物を譲ってもらったり、作ってもらったり…人のつながりの大切さを実感している。